

令和元年度 総括評価表

徳島県立板野高等学校

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
基本的生活習慣の確立	(全校レベル) 1) 生徒指導を徹底し、基本的な生活習慣の確立に努める。 2) 自他の人権を尊重する態度を育成する。 3) 交通安全を指導し、命の大切さを教育する。 (下位組織レベル) ① 授業、部活動等学校生活すべての場面での生活指導	評価指標 1)-1 頭髪服装指導を定期的実施	評価指標の達成度 1)-1 頭髪指導を定期的実施した。きめ細かい指導を行うことで指導に納得できないという生徒や保護者は少なくなり、指導に対するトラブルは激減した。	学校関係者の意見 ○スマートフォンの「使いすぎ」が心配である。引き続き講演等の指導を行ってほしい。 ○きめ細かい指導をされている。自転車のマナー向上に取り組んでもらいたい。 ○人権意識の高揚と命の大切さを再認識させる。 ○頭髪服装指導、清掃チェック、ボランティア活動、食育等細かな視点で継続的な指導が行われている。 ○挨拶を大切にしてほしい。	総合評価 (評定) B (所見) (1) 評価指数関連については、概ね達成できた。職員と生徒の心の交流を目指すなか、校門で挨拶を交わしたり、声を掛けることを全職員で取り組んだ結果、昨年度より挨拶や服装・頭髪等の基本的な生活習慣は少しずつ改善されてきた。 (2) 生徒間の人間関係のトラブルやいじめ、非行等の問題解決においては、担任だけではなく、学年団、養護教諭、部活動顧問など全職員がそれぞれの立場から一致団結し、「チーム板高」として組織的に解決に当たることができた。さらに、スクールカウンセラーや中学校、地域、警察・教育委員会等の外部機関の協力が得られたことにより、問題が深刻化する前に解決できたこともあった。 (3) 交通ルールやマナー違反については、自転車も車両であるという意識が少しずつ見られてきたが、交通事故(被害者)に遭遇する場面もあった。今後も様々な場面で注意を促していく必要がある。 (4) 遅刻回数は全体的に減少傾向にあるが、生活習慣や交友関係の乱れ等の様々な原因で遅刻を繰り返してしまう生徒もおり、家庭と連携を取りながら一人一人に応じた指導を続けていく必要がある。
		1)-2 あいさつ・清掃の徹底	1)-2 定期的実施した清掃チェックやトイレチェックの結果を各クラスに掲示することで、清掃に対する意識付けを図るとともに、清掃の活性化に努めることができた。		
		1)-3 今未来手帳の有効使用 2)-1 人権学習HRを各学年6回実施	1)-3 活用方法に個人差が見られた 2)-1 人権学習HRを各学年において7回実施し、インターネットによる人権侵害や就職差別、アイヌ民族に関する人権問題など多様なテーマを取り入れ学習することができた。		
		2)-2 いじめ・暴力行為をなくす。	2)-2 いじめの重大事案は発生しなかった。被害者の立場に立った毅然とした方針と全教職員が情報共有した集団指導により、早期に解決できた。		
		2)-3 重大事故はなかったが、イヤホン使用等の自転車運転のルール・マナー違反によるヒヤリ・ハット場面が多かった。近隣住民からの苦情も多く交通マナーの指導については継続的な指導が必要である。	2)-3 重大事故はなかったが、イヤホン使用等の自転車運転のルール・マナー違反によるヒヤリ・ハット場面が多かった。近隣住民からの苦情も多く交通マナーの指導については継続的な指導が必要である。		
		3) 交通ルールやマナーを守る。	3) 交通ルールやマナーを守る。		
		活動計画 ①-1 生徒指導課を中心に、各学年団で毎月1回頭髪服装指導を行い、事後指導も徹底して行う。	活動計画の実施状況 ①-1 全校一斉での頭髪服装指導後も個別に再検査を行い、整えられるまで根気強く指導した。		
		①-2 授業の受け方(態度や課題提出等)などの入門講座を入学時に実施する。社会で通じる「聞く」「話す」等の態度や期日を守る態度を授業中に指導する。	①-2 入学時のオリエンテーション、学年集会、HR活動において、高校における基本的学習・生活態度について説明を行った。また、各教科授業においても本格的な指導に入る前に、説明を繰り返した。宿題等の提出物についても期日を守るよう、年間を通して指導した。		
		①-3 今未来手帳を学年集会等に持参させメモをとらせる習慣を身につけさせる。生活記録としても手帳を使用し家庭学習の定着を図る。	①-3 個々のポートフォリオの記録とスケジュール管理を目指し、様々な行事等の記録を残す上では重要であると考えているが、一部の生徒は十分に活用できなかった。予算が許せば内容のカスタマイズが必要。		
		①-4 すべての授業で挨拶や身だしなみを指導する。特に、体育の授業で集団行動の指導を徹底し、学校生活全般を規律あるものにする。	①-4 集団行動の徹底を図ることで、日々の授業が規律正しく行われ、積極的に取り組めるようになった。授業の開始・終了の挨拶の励行や服装チェックの効果が現れ、生徒の意識が高まってきた。		
①-5 定期的にごみの分別や清掃状況のチェックを行い、清掃美化の徹底と校内環境の整備を行い、清掃美化意識を高める。	①-5 昨年に続き、教室・廊下等の学習環境は良くなってきている。美化委員による清掃チェックや保健委員によるトイレチェックにより、ごみの分別を含めた清掃美化意識が更に高まった。				

	<p>② 保護者、地域等との連絡強化</p> <p>③ 交通安全指導・挨拶運動の実施</p> <p>④ 生徒の心身の健康</p>	<p>② 遅刻カード(授業遅刻も含む)への記入を徹底し、家庭への連絡を速やかにする。遅刻回数が多い生徒は、保護者と学年主任・管理職等との面談を実施する。</p> <p>③ 登校時、校門前での交通指導と挨拶運動を行う。</p> <p>④-1 心の悩みが聞ける雰囲気をつくる。睡眠や食生活の大切さを、養護教諭や体育・家庭科の教員、教育相談課員等で連絡を取りながら教える。</p> <p>④-2 自己有用感を育成する。各種大会への作品応募により達成感を身につけさせる。ボランティア活動への参加により、思いやりの気持ちを育てる。</p> <p>④-3 「家庭基礎」の授業を通じて食と健康の関連について指導する。</p>	<p>② カード記入や家庭連絡は徹底できた。毎年面談数は減少傾向にあるが、遅刻回数の多さは特定生徒に偏りが見られる。</p> <p>③ 生徒会役員・野球部員とともに毎朝交通指導・挨拶運動を行い、毎週金曜日駐輪・自転車マナーについても指導した。</p> <p>④ 毎日出欠黒板から出欠状況把握し、養護教諭から保健室を利用する生徒の様子を聞き、担任や学年団で対応した。また、気にかかる生徒はスクールカウンセラーとの面談を勧め、問題行動等の未然防止に努めた。板高祭においては保健所出前講座を実施し、食生活をはじめ健康に関する内容を取り上げたり、「家庭基礎」の授業において、食の意義について常時指導した。</p> <p>④-2 年2回の通学路清掃に加え、生徒会役員を中心に、板野支援学校の学校祭でボランティア活動を行い、あさんウォーキングフェスタにも参加した。また、保育園や老人ホーム訪問、お接待をすることで、地域とのかかわりや思いやり、コミュニケーション能力の向上が図られた。</p> <p>④-3 授業では食生活と健康の関連について考えさせると共に、調理実習では食生活に関する興味関心を高め、調理技術を向上させた。</p>		<p>○交通ルールやマナーを守り交通事故に遭わないよう引き続き注意を促していく必要がある。</p>	
<p>確かな学力の育成</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>1) 基礎学力の向上を図る。</p> <p>2) わかる授業を展開する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 学び直し教材「smile」の活用</p> <p>② 授業評価結果の活用</p> <p>③ 教材の精選や授業の工夫、校外の講座等の参加、各種資格取得</p> <p>④ 学習時間の確保</p> <p>⑤ 図書の貸し出しの推進</p> <p>⑥ 不登校傾向の生徒の学びの場の保障</p>	<p>評価指標</p> <p>1) 授業内容の研究(教科会・公開授業) 各学期1回</p> <p>2) 授業評価アンケートで生徒の満足度80%以上</p> <p>活動計画</p> <p>① 1学年の国数英で学び直し教材の活用を徹底する。</p> <p>② 生徒を対象に授業評価アンケートを年1~2回実施する。教科会を開き、参加意欲の低い原因を探り改善に努める。</p> <p>③ 実験や実習を多く取り入れ、生徒が興味関心を持てる授業を展開するとともに、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、生徒の主体的な学習意欲を育てる。数研・英検・漢検などの資格試験について、可能な限り校内で実施し、受験者数・取得者数を増加させる。更に学修認定を行うことで、生徒の動機付けを一層高める。</p> <p>④ チャレンジタイム(テスト前の自主学習時間)や週末課題の実施等で学習時間を確保する。</p> <p>⑤ 入学時のオリエンテーションや読書マラソン等で、読書を促す。「図書館便り」で本の紹介をする。</p> <p>⑥ 本人の希望を聞き、家庭訪問時の授業プリントの持参や別室登校の措置をとる。スクールカウンセラーや校外の相談機関、医療機関等と連携をとり、学年会、教育相談課会等で共通理解を図る。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1) 社会科:公開授業週間以外にも授業見学等をおこない、科目間の情報交換等も活発に展開することができた。</p> <p>2) すべての教科で生徒の満足度80%以上、90%以上の教科もあった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① 「smile」を活用し、基礎的な学習内容を復習することができた。</p> <p>② 生徒にアンケートを実施し、各教科において検討会を開き授業の更なる充実、意欲高揚等に向けた具体的な方策について協議し、共通理解を図った。</p> <p>③ 情報の検定を実施し、多くの生徒の意識付けができた。2018年度はのべ103名が受験し、のべ40名の合格だったが、2019年度は受験者はのべ133名に増加し、合格者についても12月までで述べ67名と増加している。漢字検定を校内で2回実施、受験者も10名増加し、漢字検定に関する関心を高めることができた。</p> <p>④ 考査発表後、6限で終了する日は特別な行事がない限り「チャレンジタイム」を設定し、学習時間の確保に充てた。また、週末課題を与え、家庭学習の充実を図った。課題等未提出者については、提出状況のチェックを確実にし、HR担任との連携を密にして提出率をアップさせた。</p> <p>⑤ 1年生には入学時のオリエンテーションで図書室の利用方法や図書の借り方を指導した。また、毎月「図書館便り」を発行し、新館図書や推薦図書の紹介を行うとともに、10/1~11/26の期間を「読書マラソン」とし、読書を促した。</p> <p>⑥ 学年会等で不登校傾向の生徒の現状や対応への共通理解を図り、家庭訪問や保護者会の面談等で希望を聞き対応した。別室登校は0名であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>(1)評価指標関連については、概ね達成できたようである。義務教育での習熟度に差があるため、1学年4月時の授業で使用している「スマイル」は、生徒の学び直しと実態把握に効果があると考えられる。</p> <p>(2)教材の精選や実験・実習を多く取り入れた授業を展開した結果、生徒のアンケートでは授業に対する満足度は高かった。学習の成果として検定に取り組む生徒も増加傾向にある。</p> <p>(3)自主的・積極的に取り組むことのできない生徒が多く、家庭学習では週末課題に取り組む程度に止まり、圧倒的に家庭学習時間が少ない。授業態度は良好だが、主体的・意欲的に学習に向き合い、より高い学力を求めることが今後の課題である。</p>	<p>○生徒の高い満足度は評価できる。検定の合格など具体的に取り組んでいるものに成果が見られる。</p> <p>○将来の夢に向かって努力することの大切さを認識させる。</p> <p>○進路指導の方向性について、今後板野高校が進学を目指すか就職を中心にするか曖昧であると感じる。進路希望のバランスを考えながら板野高校の特色を出していく必要がある。</p> <p>○提出物の指導は先生方にも負担は大きいと思うが、継続した指導をお願いしたい。</p>	<p>1) 社会科:授業見学や教科会を通じ、科目を超えた指導力の向上に努める</p> <p>○得意科目を伸ばして不得意科目の克服のために更なる工夫を重ねていく。</p> <p>○引き続き、教科内での検討を重ね継続的に授業の充実・発展に取り組む。</p> <p>○授業評価アンケートで生徒の満足度80%以上の維持をするとともに、1年生以外についても基礎学力の定着に努める必要がある。週末課題を継続し、課題を提出日に出すよう一層呼びかけをする必要がある。</p> <p>○定期考査直前の授業が自習になることがあるので、演習を充実させるなどの取り組みが必要である。</p>

進路指導の 充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B	<p>○大学進学を増やしていく。そのためにも今後の大学入試制度改革について動向を注視する必要がある。</p> <p>○進路ガイダンスやPTAの県内外の研修を行い、充実している。三者からの評価も得ており充実している。</p> <p>○学習面で厳しい部分もあると思うが、何とかしようという学校の姿勢が感じられる。</p> <p>○最後まで学習意欲が継続する生徒の意識改革を図っていく必要がある。</p>	<p>○ 年2回の進路ガイダンスは、各回での達成目標を明確にし、なるべく多くのものを生徒に還元できるよう改善し続けていく。</p> <p>○ 進路相談も担任の目配りに負うところが大きい。各ポジションで職員が連携し、よりよい進路指導につなげる。</p> <p>○ 一人でも多くの補習参加が得られるよう努める。</p> <p>○ PTA総会、家庭教育研修会の参加者を如何にして増やすか。学校の情報を確実に家庭に伝え、保護者との連携を密にするかが課題である。</p>
	1) 多様な進路を希望する生徒の特性や個性に応じた進路指導を充実する。	1) 各学年とも年2回以上の進路ガイダンスを実施	1) 校内の進路ガイダンスは予定通り実施できた。校外でのガイダンスは、業者主催の進路相談会より、オープンキャンパス参加者が増加した。ただし、校種的には専門学校が多数を占めている。			
	2) 教育課程を充実する。	2) 学校評価アンケートで、教育課程の充実度を70%以上、生徒対象・職員対象の科目選択説明会実施、学年団による科目検討会実施	2) 「ほぼ充実している」以上の割合は、教員94.9%、生徒86.4%、保護者88.5%と高い評価を得た。科目説明会、学年団による科目検討会も予定通り行うことができ、生徒の充実した科目選択に向けたチェック体制も確立した。			
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
	① 進路相談の機会の増加	① 放課後等にも進路の個別相談に応じる。個々の進路に応じた課題を準備する。	① 全学年において、各学期当初に設けた面談旬間で生徒と面談を行った。3年生では放課後や休憩時間を利用し、個別面談を適宜実施した。部活動顧問との連携で進路を探るケースもあった。2年生就職希望者においては、3学期に担当者との面談を実施した。	(1)評価指標についてほぼ達成している。就職希望は年々増加の傾向が見られ、1学期早々から就職開拓や筆記試験対策・面接指導に取り組んでいる。企業選考が多様しており、適性かつ学力面での向上を図る必要がある。		
② 進路別の補習授業	② 進路別の補習参加人数が5割以上を目指す。	② 補習参加人数は平均して5割を上回った。3年生の補習は、進路実現に大いに役立った。	(2)進学においても、希望する生徒の進学はほぼ達成された。しかしながら、AO入試や推薦入試等の多様化による早期合格は、その後の学習活動の停滞や、クラス全体への学習意欲に影響があった。今後、大学入試改革の動向を注視する必要がある。			
③ 生徒、保護者の希望進路の実現	③ 担任による電話連絡や面談等をする。学校行事で進路に関する情報を伝える。PTAの行事として、県内外の大学・専門学校・企業等を訪問して研修を行い、家庭教育の充実に努める。	③ 日常的に電話連絡や面談は徹底している。また、PTA家庭教育研修会を2回実施し、県内外の大学・専門学校・企業を訪問し家庭教育の充実に努めた。学校祭で進路講演会を開催し、生徒と保護者が協力して進路目標の確立と達成に向けて積極的に取り組むことができた。	(3)1年次のインターンシップは、50事業所において実施し、各自が職業観の育成や進路を考える契機になったものと考えている。			
④ 進路関係図書の貸出促進	④ 進路関係図書を特集展開する。関連図書の貸出数をのべ15冊以上にする。	④ 進路関係図書を利用する生徒の数はそう多くはないが、貸し出し冊数は18冊で目標以上となった。				

「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった